

Vol. 24, No.1 号の発刊にあたって

京都大学学術情報メディアセンター

岩下 武史

京都大学学術情報メディアセンター（以下、本センター）の全国共同利用版「広報」は、本号で Vol. 24, No. 1 を迎えることになりましたが、この度、同広報は大きな変革を迎えることになりました。全国共同利用版広報は今号を最後に不定期刊行へと移行します。今後、これまで広報に掲載されてきた特集記事等の内容は、より速報性の高い本センター発のブログに移行する予定です。また、スパコンサービスに関する統計データやスーパーコンピュータ共同研究制度の報告については、本センターや情報環境機構の HP に掲載することを検討しています。なお、スーパーコンピュータのリプレースのように全国共同利用サービスに大きな変化が加わった場合には、これまでと同様の紙媒体の「広報」を発行し、ユーザの皆様に情報提供する予定です。

さて、本センターと情報環境機構は、「スーパーコンピュータ」に加えて、「エッジコンピューティング基盤」、本センターがデータ活用社会創成プラットフォーム協働事業体の一部として運用に参画している「mdx」について、これらを一体的に運用することとなりました。一体的に運用することで、各サービスの特徴や運用ノウハウを相互に共有し、より質の高いコンピューティングサービスの提供が可能となると考えています。各サービスが自律的かつ持続的に運用できることを原則としつつ、互いに協調しながらユーザのニーズに合わせたサービスを展開して参ります。

スーパーコンピュータに関連した話題では、日本の次期フラグシップマシンである富岳 NEXT について GPU が採用されることが決定し、GPU コンピューティングの普及・高度化、AI と HPC の応用を支援する拠点として、次世代 HPC・AI 開発支援拠点が設立されることとなり、本センターも協力機関として参画します。本拠点での具体的な取組はまだ定まっていますが、講習会やハッカソンの開催、GPU プログラミングに関するドキュメントや e-learning 資料の整備などが実施されると見込まれます。計算科学においても AI 技術の利用が広がる中で、AI を利用した研究活動を支える情報基盤の拡充が不可欠と考えられており、その支援体制が強化されます。また、将来の HPCI の在り方について調査研究を行う HPCI 整備計画調査研究事業も昨年までの調査研究事業の先を見据え、体制を一新して始まりました。本活動は、調査研究事業をフラグシップマシンに向けた取り組みのみならず、本センターのマシンを含む HPCI 全体の将来を継続的に検討する場として位置付けています。

一方、本センターでは、2028 年度に新スーパーコンピュータの導入が想定され、要素技術についての調査・検討を始めています。現在、スーパーコンピュータの調達に係わる外部状況は、為替レートの問題、世界的な半導体需要の高まりなど、極めて厳しい状況となっています。一方、現行のシステムのハードウェアやソフトウェアについては、ライフタイムがあり、それを超えて運用することはできず、一定の年限でリプレースを検討しなければなりません。スーパーコンピュータを構成する各種デバイスやコンポーネントのロードマップや開発状況、市況の動向、現行システムの稼働率などを総合的に勘案して、なるべく適切なタイミングでよりよいシステムが導入されるように努めていきたいと考えています。冒頭で述べましたように、本広報は不定期刊行となりますが、いずれ次期システムについて本広報でよい報告ができればと考えています。